

理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

基本方針

- 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- 二次医療を中心に担当します。
- 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

夏に気をつけたい 小児の病気

小児科 医長 奈良井 哲

夏目前、いかがお過ごしでしょうか。

この季節に多くなる小児科領域の病気について解説します。

夏カゼ

「夏カゼ」は、手足口病とヘルパンギーナの総称です。

手足口病は手足に複数の赤く小さい発疹ができ、口内にも痛みを伴う水疱や潰瘍が生じて飲食が難しくなります。発熱は必ずしも伴いません。

ヘルパンギーナは発熱と喉の赤みや水疱が特徴で、やはり飲食しづらくなります。皮膚の発疹はありません。

「夏カゼ」はエンテロウイルス属が原因で、時に無菌性髄膜炎も起こします。細菌性ほど重篤ではありませんが、発熱・頭痛・嘔吐が続きます。

プール熱

次は「プール熱」です。これはアデノウイルスによる発熱と喉の炎症です。また、眼の充血や目やになどの結膜炎症状がみられるのも特徴です。時に胃腸炎症状も起こします。

熱中症

発汗し体内の水分・塩分が減り全身の様々な症状が出ます。体温が上昇しますが、寒気を感じることもあります。翌日に発症することもあります。乳幼児でも死亡事故が発生しているため、こまめな水分・塩分補給と涼しい場所での休憩を心がけましょう。

夏カゼ・プール熱の注意点

夏カゼとプール熱はウイルスが原因なので「日にち薬」で治るのを待つしかありません。特に2～3日間、水分や適度な塩分・糖分の補給が重要です。経口補水液のこまめな摂取、解熱薬や氷嚢の使用で山場を切り抜けましょう。

水分が摂れず尿が明らかに減っている、顔色不良でグッタリする場合は速やかに受診しましょう。症状によっては点滴・入院の可能性もあります。

以上が代表的な
病気です。もし罹った時、
どう対応するかが大事です。
予防と対策を行い、
よい夏をお過ごし
ください。



熱中症にご注意！



鳥取県は6月下旬によく梅雨入りしました。
本格的な夏目前ですが、熱中症対策は万全ですか？

熱中症が起こりやすい条件

● 気温が高い日

大量の汗をかきやすい環境下では
気をつける。



● 湿度が高く、風が無い時は要注意

汗が蒸発しにくく、
体温調整をしづらくなるため、
室内でも油断は禁物。



● 急に気温が上昇した時

梅雨明け後などの身体が暑さに
慣れていない時期も注意！

熱中症に特に注意したい人

● 高齢者・乳幼児

● 体力がない人 体調の悪い人

● 肥満傾向の人

● 持病のある人

〔 高血圧、糖尿病、心疾患、
精神疾患 等 〕

● 暑さに慣れてない人

● 発汗機能が低い人

● 発汗機能を低下させる お薬を服用している人

〔 抗パーキンソン病薬、
抗コリン薬、抗ヒスタミン薬 〕

熱中症を疑われる人がいたら

安静を保てる涼しい場所に移し、氷枕などで冷や
します。意識がしっかりしていれば水分補給、できれ
ば塩分入りのものを飲ませます。そのうえで注意深く
経過を見ていきます。

意識が無い、あるいは反応が鈍い、吐き気や嘔吐
があって水分補給が困難な時や、手当をしても改善
しない場合は**すぐに救急車要請を！**

熱中症を予防しよう！

● こまめな水分補給

喉が渴いていなくても
こまめに水分摂取を！



● 大量に汗をかいた時は塩分摂取も忘れずに！

● 日頃から体調管理を心がけましょう

食事と睡眠をしっかりとする

● 室内では・・・

エアコンや扇風機を適切に
使用しましょう



● 屋外では・・・

日傘や帽子の着用
通気性の良い服装
こまめな休憩、日陰の活用



熱中症の症状と分類

	症 状	対 処
Ⅰ度 (軽症)	● めまい、大量の発汗 ● 立ちくらみ(熱失神) ● 筋肉痛、こむら返り	● 涼しいところで安静にする ● 身体を冷やす ● 水分を補給する 0.3%くらいの塩水、 経口補水液、 スポーツドリンク 等
Ⅱ度 (中等症)	● めまい、頭痛、嘔吐 ● 倦怠感、虚脱感 ● 集中力や判断力の低下	● 医療機関での診療が必要
Ⅲ度 (重症)	● 意識障害、痙攣発作 ● 過呼吸、ショック状態 ● 脳・肺・肝臓・腎臓に障害	● 救急車を呼ぶ ● 入院のうえ、厳重管理 (集中治療)が必要

※ Ⅱ度で、自分で水分・塩分を摂取できない時や、
Ⅲ度の状態であればすぐに病院へ搬送する必要があります。

新採用者オリエンテーション 院内防災訓練

を行いました！

令和6年6月14日、新規採用者を対象に院内防災訓練を行いました。4月に採用となった職員が入職して3ヶ月経ち、職場環境や病院内の構造などに慣れてくるこの時期に行っています。

院内にどのような防災設備があり、どのように活用すればよいのが実際の設備を見ながら説明を受けました。

また、実技も行われました。

消火栓を使用した放水訓練では、使用時の注意点や、初期消火の手順を確認し、実際に放水してみて水の勢いと放水口の反動を体験しました。

救助袋の設営と降下訓練では、設営方法の説明と降下実技が行われました。救助袋はいわゆる「布製のすべり台」で、高所からの降下訓練であるため最初は怖がっていましたが、いざ滑ってみれば実は怖くないということをもっと知り、安全に避難できる設備であることを認識できたようです。

有事に適切な対応や行動を取るためには日頃からの準備、訓練や知識の集積が不可欠です。医療機関としての責務を果たすべく、このような訓練を病院全体で取り組んでいます。



消火栓放水訓練



救助袋設営・降下訓練

当院からの
お知らせ

第98回 医療講演会のご案内

医療保険のイロハ

手術するけど…
費用はどれくらい
だろ？



講演内容

- 医療保険制度
- 高額療養費制度
- 鳥取市立病院の取り組み

開催日時

2024年7月27日(土)
10:00～11:30

会場

さざんか会館 5階会議室

講師

原田 麻里(鳥取市立病院 社会福祉士)
和口 豊実(鳥取市立病院 医事課課長補佐)

駐車場は、さざんか会館駐車場および鳥取市役所駅南庁舎駐車場をご利用ください。